

ざのいきょうかい しんぶん かぞく ひと いっしょ よ くだ
* 堺教会CS新聞「いずみのひろば」は家族の人と一緒に読んで下さい。

いずみのひろば

2018年9月号
日本基督教団堺教会
No.478 教会学校

『会堂長ヤイロとその娘』



ルカによる福音書8章49節—56節

イエスさまがお弟子さんたちと一緒に、ガリラヤ湖の東側から帰って来られると、待っていたカファルナウムの町の人たちは、大いに喜び迎えました。そこへ、ヤイロという会堂長（人々が神さまにお祈りをする会堂の責任者）がやって来て、イエスさまの足もとにひれ伏しました。ヤイロさんの12歳くらいの一人娘が病気で死にそうなので、イエスさまに家に来て、救ってほしいというお願いでした。

イエスさまは、すぐに、ヤイロさんの家に向かおうとされましたが、たくさんの人がイエスさまを取り囲み、また、病気の女の人を癒される出来事があり、なかなか前に進めませんでした。やがて、ヤイロさんの家からやって来た人が「残念ながら、お嬢さんは亡くなりました。」と伝えました。イエスさまは、悲しみにうちひしがれるヤイロさんに「信じなさい。そうすれば娘は救われる。」と言われ、彼の家へと向かいました。

家に着くと、亡くなっている女の子のそばでたくさんの人が、悲しんで泣いていました。イエスさまは、女の子の手を取ると「娘よ、起きなさい。」と声をかけられました。すると、どうでしょう。女の子は、目をぱちりと開き、起き上がりました。イエスさまは、女の子を救ってくださったのです。ヤイロさんも、まわりで泣いていた人たちも、死んだ者を生き返らせる事は絶対無理だと思っていたので、本当に驚きました。人が無理だと思う事でも、イエスさまは、おできになるのです。

悲しいときや苦しいとき、「もう、いやだ。何もしたくない。」と思う事ってありますよね。ヤイロさんも娘さんが亡くなったと聞いて悲しんでいたとき、イエスさまは「神さまを信じなさい。」と仰いました。そして、悲しみから救ってくださったのです。

イエスさまは、いつも私たちのそばにいて、手をのばしてくださっています。嬉しいときも悲しいときも、いつも神さまを信じて、お祈りをしましょう。そうすれば、イエスさまは、女の子を救ったように、きっと私たちの手をしっかりと取って勇気づけ、励ましてくださいます。